

白石 優羽)

私には大切な親友がたくさんいます。一人一人性格が違い、毎日が楽しくて仕方ありません。

私は大切な友達との別れを2回体験しています。一度目は保育園の時です。私は熊本から天草へ引っ越してきました。その当時のことははっきりとは覚えていません。でも、保育園の友達や先生とお別れするのが辛かったことだけは覚えています。

2度目は小学校を卒業する時です。その友達と出会った当初は仲良くなれず、顔を合わせることもできませんでした。しかし、学年があがるにつれて、その友達といろいろな話をする機会が増えていきました。親友と言っていいと思います。

6年生になり、その親友は熊本の中学校に行く、という話を聞きました。親友に直接聞きたかったけど、聞けませんでした。ある日、その親友が大好きな曲を教えてくれました。私は、その曲を聞くと涙が出てきました。きっと親友も同じだったと思います。

親友は卒業と同時に引っ越していきました。親友と別れるのは、本当に悲しいことだと思いました。友達や親友はいつもそばにいるのが当たり前とっていたけれど、そうではないんだと思いました。きっとその親友も同じように悲しんでいると思います。

もうすぐ、1学期が終わります。中学校に入学していろいろなことに挑戦しました。小学校では体験できなかったこともたくさんありました。きっと親友も新しく出会った友達といろいろなことに挑戦していると思います。私も負けないように、毎日を精一杯、頑張っていきたいです。